

おくすりコラム



「めまい」とくすり



今回は、代表的な「めまい」の種類とその原因、治療薬について紹介します。

末梢性の「めまい」

耳の中の内耳と呼ばれる部分や前庭神経の異常によって起こります。急に自分自身や周囲がグルグル回っているように感じる事が多いです。耳が聞こえにくくなったり、耳鳴りなどの症状を伴うこともあります。

中枢性の「めまい」

脳の病気によって起こる「めまい」です。ふわふわ揺れているように感じる「めまい」が多いです。まっすぐ歩けなかったり、姿勢を保てなくなったりします。頭痛、しびれ、麻痺などを伴うことがあります。ダラダラと長く続く「めまい」が多いことも特徴です。脳梗塞、脳出血、脳腫瘍など、重大な病気が潜んでいる可能性もあります。また、立ちくらみ、ストレスや不安によって引き起こされるめまいもあります。

主な「めまい」治療薬

ベタヒスチン	脳や内耳の血液や、内リンパの流れを良くします
ジフェニドール	平衡感覚に関わる神経の動きを調整し、首から脳への血流量を増やします
ATP	脳や内耳の血流量を増やし、エネルギー代謝を活発にします
イソソルビド	耳を満たすリンパ液を排出させて、内耳のむくみをとります
ジフェンヒドラミン ジプロフィリン	「めまい」や嘔吐に関わる神経の動きを抑えます
カリジノゲナーゼ	内耳の血管を広げて、血流を良くします
炭酸水素ナトリウム	点滴や注射で使われ、内耳血流量を増やし、血液のバランスを補正します

ほか、メトクロプラミドやドンペリドンなどの吐き気止め、ジアゼパムやエチゾラムなどの不安を取り除く・和らげる薬が使われることがあります。

(薬剤科長：佐藤 ゆかり)

編集後記

2011年3月11日に発災した東日本大震災から、9年の年月が経過しました。発災時、私は千葉県船橋市で生活していましたが、これまで経験したことのない強く長い地震で、即座にただ事ではないと感じ、故郷の東北、宮城への不安が頭をよぎりました。今でも鮮明に思い出されます。当病院は震度6強の激しい地震に襲われ、その後の余震も含め甚大な物的被害が生じました。震災がきっかけで、故郷・地元への思いが強くなりました。そして、2013年より当病院に勤務することとなり、今日に至っております。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、震災追悼式や様々な催しが中止・縮小されましたが、震災の記憶を胸に刻み、日々を過ごしていきたいと改めて強く思います。



地震により止まった
3階病棟の時計

(地域医療連携室：佐藤 誠之)

仙台東脳神経外科病院

〒983-0821

宮城県仙台市宮城野区岩切1丁目12番1号

Tel：022-255-7117（代表） Fax：022-255-7760

【関連施設】

仙台リハビリテーション病院

〒981-3341

宮城県富谷市成田1丁目3番1号

Tel：022-351-8118（代表） Fax：022-351-8126

医療法人社団 脳健会

仙台東脳外だより

編集：仙台東脳神経外科病院 広報部 / 発行：2020年4月

VOL.5
2020.春

ご自由にお持ちください

医療法人社団 脳健会 について

医療法人社団脳健会は、仙台東脳神経外科病院と仙台リハビリテーション病院の2つの病院で構成されています。仙台東脳神経外科病院は1988年に宮城県で初めての脳神経外科および脳神経内科の専門病院として開設され、1990年に宮城県救急病院（救急告示病院）の認定を受け積極的に救急医療に取り組んでいます。1994年からは脳健診（脳ドック）業務を開始し、救急医療に加えて予防医療にも力を入れ、そうした業績が認められ1997年に医療法人社団脳健会の法人設立認可を受け今日に至っております。さらに2013年からは整形外科（脊椎・脊髄・神経外科）を新たに開設して脳と神経全般の治療を行っています。また2008年にはこれも宮城県で初めての回復期リハビリテーション専門病院である仙台リハビリテーション病院を富谷市に開設することができ、脳卒中の予防、急性期医療、回復期そして生活期・維持期医療をシームレスに提供できるようになり、脳健会のブランドが確立されたと考えております。

昨年、仙台東脳神経外科病院は開設30周年、そして仙台リハビリテーション病院は開設10周年を迎えました。仙台東脳神経外科病院の昨年1年間の脳卒中入院患者数は698人（脳梗塞569人、脳出血110人、くも膜下出血19人）で、このうち日常生活が自立して自宅に直接退院できた患者さんは353人（50.6%）で、多くの患者さんは住居に近い医院・クリニックに紹介しています。また、療養型病院や介護施設にお願いした患者さんは84人（12.0%）でした。そして、回復期リハビリテーション病

医療法人社団 脳健会
理事長
脳神経外科
よねや もとひろ
米谷 元裕



院に転院した患者さんは190人（27.2%）、この中で仙台リハビリテーション病院に転院した患者さんは82人で、半数以上の患者さんは他の病院の回復期リハビリテーション病棟に紹介、転院しています。

一方、仙台リハビリテーション病院の昨年1年間の新規入院患者数は328人でしたが、仙台東脳神経外科病院の患者さんの占める割合は25%で、大多数は他の病院よりご紹介いただいております。（仙台市から53%、大崎・栗原医療圏から14%、石巻医療圏から1.5%、登米・気仙沼医療圏から1.5%、その他県外から5%）両病院ともに多くの連携病院やクリニック、そして介護・福祉施設の皆様方のおかげで運営できていることがこの数字からも分かり、無事に昨年記念すべき年を迎えることができたのも皆様方との連携があったからこそです。心より感謝申し上げます。

両病院をこれまで利用していただいた患者さんにも改めて感謝申し上げるとともに、皆様方の信頼を裏切らないように今後とも精進してまいります。

地域医療に対する社会的使命をより自覚して、職員一同毎日の診療に携わってまいりますので、今後ともご指導をよろしくお願いいたします。

院内トピックス

新型コロナウイルス感染症対策を行っております



世界的に感染が拡大し、日本国内においても様々な影響が出ている新型コロナウイルス感染症対策のため、当院においても様々な取り組みを行っております。

- ・病院にお越しの際は、皆様にマスクの着用をお願いしております。手指消毒、手洗い、せきエチケット等にご協力をお願いいたします。
- ・入院患者様への面会は、当面の間禁止とさせていただきます。入院時・退院時などやむを得ない場合、「面会許可証」のある方のみ病棟へお入りいただけます。
- ・荷物の受け渡しなど、御用はすべて1階受付でお伺いしております。

面会禁止期間中
病棟へご用の方は
受付窓口へ

院内では必ず
マスクの着用を
お願いします。

患者様へ
・咳、のどの痛み、倦怠感
など風邪症状がある方
・37度以上の熱がある方
・1週間以内に37度以上の
熱があった方
上記のような症状があった方は必ず
受付・看護師に申し出てください。
仙台東部神経外科病院 病院長

皆様方には、多大なご不便、ご迷惑をおかけいたしておりますが、何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。最新情報は院内掲示物、ホームページにてご確認ください。

集中 連載

まつろわぬ人等多賀城府①

麻醉科 飯田 司
(くまがい塾 塾生)

令和元年9月21日から11月24日まで、多賀城市の東北歴史博物館で、東北歴史博物館開館20周年記念・宮城県多賀城跡調査研究所設立50周年記念特別展が開かれました。私はかねてから蝦夷(えみし)に興味がありましたので、博物館の展示並びに記念講演会、蝦夷講座などを聴講し改めて蝦夷、多賀城府について勉強してきました。今回は、その内容の一部を紹介したいと思います。

表題の「まつろわぬ人等」とは誰でしょうか。「古事記」の記載によれば、古代東北地方に住んでいた蝦夷です。多賀城府は奈良の都、大宰府とともに三大京の一つに数えられています。大宰府は白村江の戦い(663年)後、九州の防衛・鎮撫のための国府が置かれた所です。多賀城府も、東北の蝦夷からの防衛・鎮撫のために国府が置かれた所です。蝦夷と多賀城府について、今までに解明された事など一部分紹介したいと思います。ではまず、蝦夷とは何者だったのでしょうか。蝦夷(まつろわぬ人等)とは、朝廷の直接支配の及ばぬ人々の意味で、朝廷からは異民族と見られていました。ですから言葉も通じず、通訳がいたことが文献に残っています。文献、考古学調査から6世紀～11世紀まで蝦夷と呼ばれた人々がいたとされています。6世紀頃は歴史上古墳文化(それ以前が弥生文化)で、東北地方は土器の分類上では続縄文文化(それ以前が縄文文化)の頃です。どのような生活をしていたのか?基本的には縄文時代と同様、狩猟・採集生活でした。稲作も伝わっていましたが、西日本と比べ冷涼な気候の影響で稲の栽培が不安定だったためです。朝廷は支配領域を拡大させるため東北地方に勢力を伸ばし、関東・西日本から移民をし稲作を広めようとしていました。朝廷にとりこまれる蝦夷(浮囚)もありましたが、反抗する荒蝦夷(あらえみし)もありました。そのため防衛、征討の要となる国府を多賀城に置いたのです。奈良時代、724年のことです。多賀城碑が残っていて、持節大將軍大野東人(おおののあずまひと)により創建されたことが刻まれています。(次回へつづく)

「くまがい塾」とは、仙台市出身の直木賞作家・熊谷達也先生が主催する東北歴史塾。「東北人はどこから来たのか、東北人とは何者か、東北人はどこへ行くのか」という問いかけのもと、東北の今と昔を学ぶ塾です。概ね月1回(土曜日、16時～17時30分)開催しています。連絡先:とびのこハウス(仙台市青葉区中山5-6-12、電話:022-341-1187)まで

栄養 ひとくちメモ

脂質の多い食事について

食事の後は、血管が傷つきやすくなっていることをご存知ですか?脂質を多く含む食事をとり過ぎてしまうと、血液中の悪い脂質が増え、血管の内側の壁を傷つける原因となります。傷ついた所から悪い脂質が入り込み溜まっていきます。これが“動脈硬化”の始まりです。この状態が続くと、動脈硬化が進んで脳卒中や心臓病などが起こりやすくなります。

肥満・メタボリックシンドロームの方は特に要注意



私たちは、昔と比べ脂質を多く含む食事をとることが増えました。特に、肥満・メタボリックシンドロームのある脂質異常症の方は、そうでない人よりも小腸から吸収される脂肪量が増え、悪い脂質も増加しています。そうならないために、栄養バランスの良い食事をとり、適度な運動を心がけ、悪い脂質を増やさないようにしましょう。



内臓脂肪が溜まりやすい習慣

内臓脂肪が溜まると、高血圧・高血糖・脂質異常症などの原因となります。下記のような習慣がないかチェックしてみましょう。当てはまる項目が多いほど、内臓脂肪が溜まっている可能性が高いため、習慣を見直してみましょう。

- 1 野菜不足!
- 2 満足するまで食べる!
- 3 お酒をよく飲む!(休肝日なし)
- 4 甘い飲み物をよく飲む!
- 5 夕食時間が遅く、量が多い!
- 6 運動不足!
- 7 間食をよくする!
- 8 主食の重ね食べをする!

このほか、喫煙習慣や睡眠不足などもリスクがあるので気を付けましょう!

当院では、管理栄養士による食事相談を行っております。

食事療法は、病気を治療する上で大切な治療法の一つです。医師の指示に基づいて、管理栄養士が患者様の症状に合わせ、食事をどうしたら良いのか、分かりやすくご説明します。ご希望の患者様は、予約制となっておりますので、主治医または看護師にご相談ください。(管理栄養士:山上 有梨)

